

3種目について解説!



私たちが撮影のお手伝いをしました!

◀左から大園心乃さん、石堂悟志さん、川井田暁さん

フルーレ



有効面：胴体のみ（背中を含む）

剣

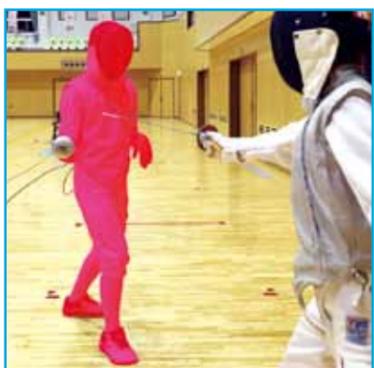
110cm以下

フルーレは「優先権」を尊重する種目です。先に腕を伸ばし剣先を相手に向けた方に「優先権」が生じます。相手が向けられた剣先を逸らせる、間合いを切って逃げ切るなどすると、「優先権」が消滅し、逆に相手が「優先権（すなわち反撃の権利）」を得ることになります。このように、攻撃—防御—反撃—再反撃といった瞬時の技と剣のやりとりが見どころです。

ミニ知識

昔、剣術の練習に真剣を使っていた頃、危険を避けるために「剣を払ってから反撃する」という約束事で行った練習がスポーツ化したもの。

エペ



有効面：全身（足の裏も有効）

剣

110cm以下

エペの基本ルールは単純明快! 全身が有効面で、先に突いた方に得点が入り、両者同時に突いた場合は双方の得点となります。ランプの点灯に注目していればどちらの選手が得点を挙げたか判断できるので、最もわかりやすい種目と言えます。前腕を狙った攻防、つま先への意表を突く攻め、思い切った接近戦に持ち込む等、変化に富んだ試合展開が見どころとなります。

ミニ知識

西洋の決闘では、自分の名誉を守るために行うので、相手に血を流させたら終わり。その時、自分も血を流したら相打ちになるので、エペには相打ちの判定がある。

サーブル



有効面：上半身のみ

剣

105cm以下

ハンガリー騎兵隊の剣技から競技化した種目。フルーレとエペが「突き」だけの競技であるのに対し、サーブルには「斬り(カット)」と「突き」があります。ルールはフルーレと同様「優先権」に基づいており、攻撃権の取り合い、防御の方法等が判定に影響します。さらに「斬り」の技が加わる分、よりダイナミックな攻防が見られます。

ミニ知識

有効面が選手の腰から上の部分なのは、昔、戦いのときに相手の馬を傷つけることを避けるために、腰から下は攻めなかったことから来たもの。

試合の中での主審の言葉

ヨーロッパ発祥のスポーツのため、試合の中での主審の言葉は多くが外国語です。よく使われる主審の言葉の意味をご紹介します。

アンギャルド / 「構えて」 試合開始の号令
 ブレ / 「用意はいいか?」と選手に確認
 アレ / 「始め」 試合開始の合図
 アルト / 「やめ」 試合を止める
 ノン・パラブル / 「無効面」 得点無効
 トゥシェ / 「突き」
 パラード / 相手の攻撃を剣で防御

アタック・シミュルタネー・クドゥブル / 同時に攻撃(エペのみ双方得点)
 トゥシェ・ア・ゴージュ / 右側の選手の得点
 トゥシェ・ア・ドロワット / 左側の選手の得点
 アヴァン・アレ / 「始めの合図の前」 得点無効
 アブレ・アルト / 「やめの合図の後」 得点無効
 リポスト / パラードに次ぐ攻撃



フェンシングってどんなスポーツ?

2人の選手が向かい合い、片手に持った剣で互いの有効面を攻防する競技。

3つの種目があり、接近戦で繰り出される激しい剣さばきは、瞬きが出来ないほど素早く、必見です!

初観戦でも大丈夫!!

ルールを知ってフェンシングをもっと楽しもう!

かごしま国体フェンシング競技の主なルール

《試合内容》

1チーム3人の選手編成による団体戦

《大会方式》

1~2回戦はリーグ戦(プール戦)を実施
 → 成年男子は3回戦からトーナメント
 → 成年女子、少年男子、少年女子は準々決勝からトーナメント

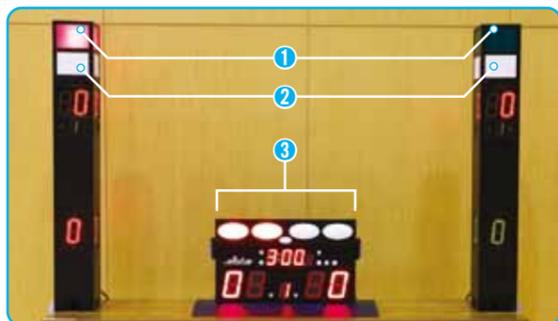
《試合時間と勝負決定方法》

- ① 1試合3分間で5ポイント先取した選手が勝利(3分経過した場合は、ポイントの多い選手が勝利となる。)
- ② 2勝したチームが勝利

ここを知っていればもっと楽しめる!



競技コート(ピスト)と電気審判器



《電気審判器(得点記録灯、補助ランプ)》

他のスポーツとは違い、フェンシングの勝敗の判定は、電気審判器で行われます。剣先にスイッチが内蔵されていて、相手の有効面に触れると通電し、得点が入ります。

有効の場合

①③の赤or緑色ランプが点灯

無効の場合

②④の白色ランプが点灯

《競技コート(ピスト)》

ピストと呼ばれるコートで行われます。中央線を挟んで両サイド7mずつ、合計14mのピストで競技。

